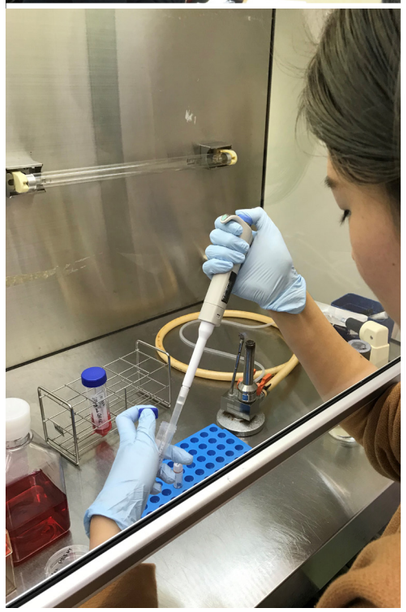
4-2.2 大学院医科学教育部

大学院医科学教育部の前身である大学院医学研究科は1955（昭和30）年に博士課程が設置され、2003（平成15）年に修士課程が設置された。2004（平成16）年に医学、栄養学、歯学、薬学の各研究科が統合され、教員組織である研究部（現在の医歯薬学研究部）が設置されたことに伴い、教育組織である大学院医科学教育部（医科学専攻、医学専攻）に改組され今日に至る。最近では、大学院教育の質保証が強く求められるようになり、2018（平成30）年度には教育プログラム評価委員会を設置して、定期的な自己点検評価を実施する体制を整えた。

本学蔵本地区には、世界をリードする研究成果を挙げている先端酵素学研究所があり、その多くの教授が医科学教育部に積極的に参画している。さらにポストLEDフォトニクス研究所等と連携して、医光連携研究を大学院教育に活かす取り組みも始まっている。また、蔵本地区の5つの医療系大学院教育部がそれぞれの専門性を活かしながら、組織横断的大学院教育に取り組んでおり、2010（平成22）年9月に改修された生命科学総合実験研究棟（医学臨床B棟）には、医科学、口腔科学、薬科学の各教育部の大学院教育を担当している研究部分野が入ることで、その連携は一層促進されている。具体的には、医療教育開発センターの支援の下で他の教育部と連携して、大学院共通科目の開講、統合医療学際教育英語プログラムの実施、Tokushima Bioscience Retreatならびに教育クラスターの実施等に中心的に取り組んでいる。教育クラスターは、組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療系クラスターによる組織的な大学院教育改革プログラム」（2009（平成21）年～2011（平成23）年度採択）から開始されたもので、所属教育部の垣根を超えて大学院生の指導を行うシステムであり、現在は、心・血管、肥満・糖尿病、骨とCa、脳科学、感染・免疫、再生・発生・遺伝の6つのクラスターが活動を継続している。